

平成 26 年度 広島・愛媛交流会議 議事概要

日 時 平成 26 年 10 月 8 日 (水) 14:00～15:08

場 所 今治市村上水軍博物館

出席者 (敬称略)

愛媛県知事 中村 時広

広島県知事 湯崎 英彦

愛媛県商工会議所連合会会頭 森田 浩治

広島県商工会議所連合会会頭 深山 英樹

1 開 会

【門田部長】

ただ今から平成 26 年度の広島・愛媛交流会議を開催いたします。

本日、進行を務めさせていただきます愛媛県企画振興部長の門田でございます。どうぞよろしくお願いたします。

それでは、開会に当たりまして愛媛県知事からごあいさつを申し上げます。

2 開会あいさつ

【中村知事】

まず、会に先立ちまして、先般、広島市で発生をしました大規模な土砂災害、お亡くなりになった方々に対して心から哀悼の意を表させていただきますとともに、まだ被害に苦しんでいる方に、心からお見舞いを申し上げます。

この広島県と愛媛県の交流会議でありますけれども、今年で 22 回目を迎えますが、単なる顔見せの会議というよりは、本当に隣同士の県として忌憚のない意見交換を交わす中で、具体的な成果に結び付けるような歴史を刻んでまいりました。

今日は、愛媛側のホストということで、まさに今、本屋大賞を受賞した『村上海賊の娘』の舞台でもある能島と目と鼻の先であるこの大島で開催することになりました。本当に本の力によりまして、この村上水軍博物館も昨年比で倍増の方が押し寄せるといふ活況を呈しています。今日は、その博物館の魅力と、そして、今年の夏から開放されるようになりました能島上陸、潮流体験クルーズの魅力を味わっていただくことができたかと思えます。因島村上氏もありますし、広島県と連携する新たな素材がまた生まれたのではないかと感じています。ぜひ、こうしたアイデアをこれからまた出すことによって、広島県と愛媛県の結び付きがさらに深まることを心から期待しています。

今日は、そういう意味で、この瀬戸内海の秩序と安全航海に寄与してきた水軍たちの拠点でもって実のある会議をしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

【門田部長】

ありがとうございました。

それでは、これから以降は中村知事の進行によりフリートーキングでお願いしたいと思えます。どうぞよろしくお願ひします。

3 意見交換

【中村知事】

それでは、1時間という大変限られた時間でござひますので、4項目に絞ひまして意見交換を進めていきたくと思ひます。

(1) 広域的災害対応での相互支援について

【中村知事】

最初の項目は、広域的災害対応での相互支援についてでございます。両県とも、様々な課題にそれぞれの県で取り組んでいるところでありまひすけれども、災害規模が大きくなつた場合はお互いに助け合ひの力が必要になってくることもあります。そういう観点から、まず、湯崎知事からお願ひいたします。

【湯崎知事】

このたびの災害では、74名の方がお亡くなりになりまして、住宅の被害も4,500戸に上るといふ非常に大きなものになりました。まだ避難勧告が続いているところも一部ありまして、避難生活を続けるという被災者もいるところでありまひす。災害発生後は、その対策のために愛媛県からも県の機動隊あるいは広域緊急消防援助隊の応援をいただきまして、本当に助かりました。ありがとうございました。また、愛媛県からお見舞いもいただきましたし、企業からもたくさん義援金あるいは支援のご協力をいただいております。この場をお借りして皆さまに深く御礼を申し上げたいと思ひます。本当にありがとうございました。

広島・愛媛両県は、広域災害発生時のカウンターパート県ということで、災害発生以来、警察・消防の応援のほかにも、ずっと連絡を取り合つて情報共有を図つてきました。愛媛県からは何かあればいつでもお手伝ひしますというお力強い申し出を頂きまして、本当にありがたいと思つております。こういった支援の準備は、これまで、訓練の相互観察、あるいは、去年、中四国9県で行つた合同訓練を通じて、お互いの顔が見えるという関係ができてきたといふところから可能になつたと思ひています。

今回は、局地的な豪雨による災害でありましたけれども、今後、複数の市町で、あるいは、都道府県にまたがる災害が発生することも大いに考えられることでありまひすので、引き続き連携を深めて、災害が発生したときにしっかりと迅速に相互支援できるように取り組んでまいりたいと思つております。よろしくお願ひします。

【中村知事】

広島土砂災害のニュースが入ってきたときには、やみくもに駆け付けてもかえって混乱を招くだけなので、広島から要請があれば全ての要請に応じて速やかに動けるように待機というようなことで準備していました。今お話があったように、警察、消防等がささやかながらご支援をできたのではないかと考えています。

何かあったときに、こうした支援を速やかに行うには、やはり日頃からの連絡体制、それから、災害に備えたお互いの状況を知っておくこと、時には図上訓練であるとか総合訓練でタイアップするといった平時の取組みがすごく大事になりますので、今後ともぜひ関係機関、関係部局での連携を強化させていきたいと考えています。

特に本県の場合は、南海トラフ地震への備えというのが大問題になっていまして、もし被害が出たときは、広島県に状況をお伝えするということが災害対応の必須条件になっているような気がしていますので、その点も今後ともよろしく願いできたらと思います。

それでは、この件について、経済界にも色んなやり取りがあるのではなかろうかと思うので、まず深山会頭からお願いします。

【深山会頭】

実は、今年の6月に広島県の中国地方の商工会議所、51 会議所あるんですけども、その総会のおきまして、「大規模自然災害に際しての中国地域内商工会議所における広域連携支援に関する基本協定」という長い名前の協定を締結したところであります。

この協定は、巨大な南海トラフ地震でありますとか、台風の襲来によります風水害等の大規模な自然災害が発生した場合に、中国地域内 51 の商工会議所で相互の支援・応援体制をとろうという基本協定でありまして、そうしたことで被災した商工会議所の応急体制、応急復旧ならびに事業の継続等の広域の支援活動を迅速かつ円滑にやっというところで協定をしたわけですが、今後は、この協定の範囲を広げて、四国地方の商工会議所さんとの連携も視野に入れた検討、協議をお願いできればと考えております。

【中村知事】

今のご提案を受けて、森田会頭、いかがでしょう。

【森田会頭】

四国内でも、中国地方のだいたい半分の 27 商工会議所が連携協定を結びまして同じようなことやっています。もともと広島県と愛媛県は、昔は海を交通手段とする海洋経済で、最近でも経済社会の結び付きが非常に強く、お互いにビジネスでつながっていて、私ども経済界も広島に出て行っています。そういうつながりがあるわけですから、つながりを深めるためにも、ぜひこの協定を、中四国全体とするか、それぞれ広島と愛媛とするか、その辺は少しだけ検討して、全体がいいかもしれませんね、南海トラフは四国でも高知が一番なんか大変だと言われており、中四国両方が一つになった形の連携協定をするという方向でまた検討いたします。

関連して、しまなみ海道など橋による交通が発達し、従来の海上交通の機能が縮小されて、今、フェリーがなくなってきているんですね。ですから、南海トラフ地震などでしまなみ海道など橋に被害が出ると支援人員や物資の輸送でも困るので、やはりこのフェリーという公共の交通機関を残していくように、我々も折を見てお願いしていますけれども、行政でもぜひこのフェリーという交通手段を大事にしていく方向をお願いしたいと思います。

【中村知事】

フェリーに関しては全国的な課題でして、特に今、燃料費の高騰等でさらに一層厳しい状況を迎えています。ご指摘のように、大規模災害のときには人員や物資の輸送などに非常に大きな力を発揮すると思いますので、特に広島と愛媛は船で結び付いてきた歴史があり、航路についてもまた連携しながら考えていきたいと思っています。

【森田会頭】

後で出てきますが、サイクリングも関係しますから。

【中村知事】

そうですね。湯崎知事、いかがでしょうか。

【湯崎知事】

本当にそういった災害のときの代替手段を考えておくということだと思います。我々も航路の確保に心砕いておりますけれども、愛媛県と連携しながら対応していきたいと思っています。

【中村知事】

行政だけの連携でなく、やはり経済界も、他の課題でもそうなんですけれども、連携意識の下で重層的に連携を進めていくということが広域災害対応には必須だと思いますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。

それでは、次の話題に移らせていただきます。

(2) 「瀬戸内しまのわ 2014」及び「瀬戸内しまなみ海道・国際サイクリング大会 サイクリングしまなみ」について

【中村知事】

複数の県で協力して販売的なイベントを行うというのは過去にも例がたくさんあったと思うんですが、長期間にわたって複数の県が共同してイベントを実施するのは、現在、広島県と愛媛県が共同開催している「瀬戸内しまのわ 2014」が恐らく初めてではないかと思っています。やはり同じ行政であっても、各々の考え方、進め方、いろいろな相違がありますから、なかなかそこまで踏み込んだ関係はなかったと思うんですが、そういう初めてのチャレンジの「瀬戸内しまのわ 2014」がいよいよ佳境を迎

えようとしています。

正直に言って、広島県と愛媛県でやってみて、まず何よりも、共同でPRをしますので1イベントであるけれども情報発信力が1県でやる場合とは全然違うということをつくづく感じています。広島県にもプラスのメリット、愛媛県にもプラスのメリットをもたらしていると感じます。

それから、職員同士がお互いのやり方の違い、考え方の違いを、議論を通じて一つ一つハードルを越えながらやったことによって、しまなみ海道を中心とした共有意識というのが格段に醸成されたのではないかと感じているところです。

さらにもう一つは、島の皆さん、どうしても地理的なハンディを常に考えられている方々が、このイベントを通じて、自らのふるさとである島、地域の魅力に気付かれたことです。愛媛側でも途中で自主企画イベントが「こういうのをやりたい。」とどんどん増えてきました。これは、地域住民の自主性が目覚め始めているという証しだと思えます。そんな色んな効果がこの6カ月の間に生まれてきたことを実感しています。

それから、最終日10月26日のサイクリング大会は、海外からも含めて約8,000人の方々が参加するイベントになりそうですが、後は当日の天候と、両県それぞれの皆さんがチームワークよろしく是が非でも成功に収め、来た方々に「良かったね。」と言っただけのような大会にすれば、その感想が恐らくFacebookやTwitterを通じて一斉に広がると思うんですね。それが両県の観光振興にも直接的に結び付いていくことを確信しています。ぜひ「島の輪がつながる。人の和でつなげる。」というコンセプトどおり、そのきっかけとなるようなイベントにできればと思っています。

ちなみに、ご承知のとおり、楽天トラベルの「今年の夏休みに行き先の県別ランキング」を発表したところ、「伸び率ランキング」で愛媛県が1位、広島県が5位でした。そういうメッセージ性も非常に大きなものになってきていると思いますので、ぜひ今回の「しまのわ」を通じた取組みを、これで終わりではなく、次につなげるような仕掛けもしていきたいと思えますのでよろしくお願いします。

それでは、湯崎知事からもお願いします。

【湯崎知事】

この「瀬戸内しまのわ 2014」は、本当にこの会議で中村知事が「しま博」を一緒にやりたいとおっしゃったところから始まって、それが本当に実現をして、今、佳境に入って、あと3週間というところになってきたわけです。おかげさまで本当に素晴らしい盛り上がりを見せて、正直に申し上げて、最初始まる直前ぐらまでは「これはどうなることか。」という感じもありましたが、本当に地域全体が盛り上がって行って、中村知事が指摘されたように、その地元の人からどんどんどんどんこれにもっと参画したいという声も上がって行って、大成功だったと思います。両県の間でも「のろしリレー」というのが行われました。これまさに、昔、海賊たちもやったかもしれませんけれども、島々で、愛媛・広島それぞれの島々の人がのろしを上げたものです。40団体ぐらいが参加したと思うんですけども、本当にチームワークが新しく生まれてきたと思います。実は山口県も一部入っていただいているので、地域的な広がりも出ました。このほかにも、いろんな島の産物を持ち寄ったマルシェをやってみたりとか、

そういうことも含めて広域的なネットワークが広がっていったなというのを実感しています。

これの非常に重要なところは、民間の皆さんが自主的にされるということが多かったということ。行政が少しそれをサポートする部分もありましたが、それがうまくかみ合って盛り上がりを見せていったということで、この動き、ないしはこの考え方というのを今後もやはりずっと継続していくことが、中村知事がおっしゃったように、非常に大事なことだと思います。そのためにも、いろんな地域地域のグループが今後も引き続き交流をして、お互いを刺激し合ったり、あるいは、やり方の改善を図ったりとか、新しいことを学んだりというようなことを進めていくことが大事だと思いますし、協力してイベントの情報発信をして誘客も図っていくというようなことが大事ではないかなと思います。ぜひ今後も引き続きそういったフォローアップの取組みとして地域の魅力をブラッシュアップして、それを発信していく、あるいは、それをやっていくリーダーを含めた人材育成、こういったことについて愛媛県と連携をしながら進めていきたいと思っております。ぜひ今後ともよろしく願いいたします。

【中村知事】

本当にこの両県会議で誕生した取組みでしたけれども、それを両県の経済界にも受け止めていただきまして、気持ちよくご協賛、ご援助等をいただいておりますことを心から感謝をします。実際、それぞれの地域のイベントに参加、協力いただいておりますけれども、その点に関して深山会頭、いかがでしょう。

【深山会頭】

中村知事、湯崎知事の強固な協力関係の下に進められてきたわけでありましてけれども、大成功に終わるのではないかと感じております。これまでにない画期的な取組みだと私も感じておりまして、この「しまのわ 2014」が全国のモデルケースとなって、各地の特徴を生かした広域連携によるイベント開催に波及していくということを大いに期待しております。

それから、「瀬戸内しまのわ 2014」におきましては、広域観光ネットワークの構築でありますとか、住民が主体の観光プログラム、地域資源の発掘およびブラッシュアップ等、5項目の方針を掲げておりますけれども、やはりこのイベントの終了後には、この項目ごとに効果等も十分検証をして、今後のイベントに反映させていただけるというふうに感じております。

【中村知事】

ありがとうございます。森田会頭、愛媛側からはいかがでしょう。

【森田会頭】

3月の宮島のスタートからしばらくは、本当に大丈夫かなという感じを正直持っていました。中島と興居島でのサイクリング大会を最初に、一つ一つ各地で色んなイベントをやっていって、だんだん認識されてきて、「しまのわ 2014」について尋ねられるようになり、これは広島県と愛媛県が瀬戸内海とその沿岸でしているイベントですよ

いろいろな説明するようになりました。それは恐らく各地で 400 以上のイベントがあったわけですから、先ほど中村知事が言われた、両県がやったということが全国的にもかなり発信され、認識されてきたことと、それと、地元のあるところでも、ここでもイベントをやっているという、何か刺激されるようなところがあって、そういう7カ月の長期にわたって色々な場所でやったことで、この広さと長さで発信力、これが今までない大きさの催しとして本当に大成功になると思います。新しい地域おこしのモデルといいますか、これは「瀬戸内海 80 周年」というキーワードの下に始まったわけですが、非常に素晴らしいこの催しであったと思います。2人のマンパワー、リーダーシップというものがなかったらできなかったと思います。当初は、本当に私自身も「うーん」と思っていましたけれども、今は「うん、納得。」で、本当に良かったなと思っています。

それで、一過性にならないように、本当にこれから大事です。今回、自分達の地域の歴史や伝統というのは素晴らしいんだと他人が認めてくれたことにより、その土地の人も色々な発見をできたと思うんですね。それらを磨いて、そして、先ほど出ましたけれども、この広いエリアの中でつないでいけば、それぞれ違うわけですから、つないで一つのゾーンとしての大きな魅力につながっていくと、ネットワークになります。瀬戸内海全体としてつながれば、本当に国内外からたくさんの方に来ていただけます。新しい地域おこし、まさに今、地域創生本部ができて、地域の特性を生かした地域活性化ということが言われていますが、それに先行した形で始まったわけです。もともと、この瀬戸内海は海を道としてつながっているところですから、もう一度原点に戻って、この地域で一つになって世界にアピールできる地域を作っていくと。そこにしまなみ海道があるわけですから、世界のサイクリストの聖地となって、サイクリングは世界一になれる大きな可能性がありますので、地域の観光開発や産業振興にもつながってくると思います。

【中村知事】

「しまのわ」は、最初にこの会議で、私から「大しま博」を提案させていただいたところ、湯崎知事は「瀬戸内 海の道構想」を提案されており、そのあたり非常に波長が合って、広島と愛媛でやろうということになったものです。ひょっとしたら、これがまた香川と岡山、あるいは、徳島、兵庫、大阪などで、2県でやろうとか、そんな動きにつながるかもしれないし、またその積み重ねが湯崎知事の言われる「瀬戸内 海の道構想」へと結び付いていくというような胎動を何か感じています。

そのあたりどうでしょうか。

【湯崎知事】

本当に村上海賊もちょうどいいタイミングで出てきたなと思うんですけども、やはり瀬戸内というのがもともとは一つの地域であって、行政区分というのはいろいろ昔もあったかもしれませんが、人々が一体となって共有をしていく、それが今ここへきて復活をしてきたというのをまた強く実感するイベントだったと思います。

また、ちょうどこのしまなみ海道があることによって、サイクリングも両県をまたぐるルートでありますから、本当に一緒に取り組み、今度の最後の大会イベントもぜひ成

功させたいと思います。ちょうどCNNが世界で最も素晴らしいのサイクリングコースの一つに取り上げてくれたところでこのイベントがあって、そして、『CYCLE SPORTS』という雑誌が、中村知事が最新号に出ていますけども、この「しまなみ海道」だけではなくて、愛媛県のコースと広島県のその他のコースも取り上げて8号にわたって特集していただけるということで、すごく盛り上がってきていると思います。ですから、この「しまのわ」プラス「サイクリング」でもっともっとこれからもやっていきたいと本当に思いますし、愛媛県では「愛媛マルゴト自転車道」という、本当に素晴らしい取組みをどのように進めていかれたのか、広島県ではなかなかそこまでいっていないので、ぜひまたお聞かせいただければと思います。

(3) サイクリングを核とした観光振興について

【中村知事】

それでは、今、自転車という切り口を提示していただきましたので、次のテーマとしてサイクリングに進みます。自転車観光という切り口と、それから、これは湯崎知事が提案されているナショナルサイクリングロードのことについても触れたいと思います。

まず、しまなみ海道をサイクリングの聖地にということを広島県と愛媛県でぜひこれからも情報共有して発信していきたいと思っています。

それから、愛媛県では、広島県と愛媛県の共有財産であるしまなみ海道を「サイクリストの聖地」、そして、その後に愛媛県全体を「サイクリングパラダイス」に位置付けるという構想を考えて、その核として事業展開しているのが「愛媛マルゴト自転車道」作戦です。まず、この雰囲気をつくるために、県全体の方々がまずサイクリングの魅力を知ると。まずは、県庁職員です。次に、やはり「マルゴト自転車道」を進めるときに必要な力が県内の市町長さんのご理解だと思いましたが、県内の市町長さんに一緒になってサイクリストとしてその魅力を体感していただきました。その次に、経済界の皆さん、若い人よりも50、60、70代の方に走っていただきました。森田会頭にもご無理をお願いしまして7月に同行していただきましたが、やはり経済界の皆さんも、しまなみ海道の魅力を感じられたことによって、もうほとんどの人がサイクリストになりつつあります。先般、経済、農業5団体が一緒になって、県の進める自転車振興を経済界として本格的にバックアップしようということで、多くの方に呼び掛けていただきました。初めの頃は、私が呼び掛けるだけ度に、最初は「何で、何で（自転車なの?）」という感じから始まって、走ってみたら、「すごく面白かった」、「いけるよ」という声に変わっていたのですが、今は、みんなが楽しみながら進めていって自然な広がりになってきていると思います。今、県内全市町に26のサイクリングコースを設定し、順次整備を行うとともに、それから、各市町長さんが楽しさに気付かれましたので、小さくてもいいからということで、色んなサイクリイベントが県内各地で実施されるようになってきました。そういうことがやがて総合的に結び付いていくことを期待しています。

もう一つは、「世界の」ということを掲げていますので、これはもう広島県と愛媛県

が一緒になって、例えばそれぞれが対外的にPRするときも、私が行くときには「広島と愛媛を結んでいるしまなみ海道がいいですよ。サイクリングは最高ですよ。世界一ですよ。」というのをPRすることを心掛けていますし、また、広島でも同じようにしていただくことによって、しまなみ海道の認知度、魅力というのは格段に広がりを見せるのではないかと思います。

そして、広島側にはもう一つ「とびしま海道」という素晴らしい橋のルートがありますので、愛媛側にも同じようにもう一つあれば、しまなみ海道が真ん中に太い線として広島・愛媛を結んでいる最高のルートで、実は広島側にも、愛媛側にも別の海道があるということになれば、非常にバランスが取れてよいと思ったので、上島町長にぜひ名前を付けてほしいというお願いをしたところ、すぐに対応いただいて、今年、上島諸島を結ぶ橋のルートに「ゆめしま海道」という愛称が正式に付けられました。これで「しまなみ」、「とびしま」、「ゆめしま」の「・・しま海道」が3つそろい、観光客に対するアピールの魅力も3倍増になったのではないかと思いますので、また、この辺りの連携もよろしく願いできればと思います。

では、湯崎知事からお願いします。

【湯崎知事】

まさにそういう意味でだんだんとエリアを広げていくということは重要だと思います。広島の場合は山もあるので、そちらも含めて進めていきたいと思っておりますけれども、ぜひ私も中村知事を見習って経済界も巻き込みながら、各市町の市長さん・町長さんを巻き込みながらやりたいと思います。やはり、その中でもしまなみ海道は代表なので、ここをまたさらに整備を進めていくということが非常に重要なのではないかと思います。海外のお客さんが平日に走っていらっしゃるというのにつけても、だんだん知名度も上がってきているし、実際に来られる方も増えている。これはまさに日本を代表するサイクリングの聖地としてナショナルサイクリングロードということで位置付けて、ぜひこれは両県だけではなくて、国にも参画をしていただきたいと思っております。

そして、今、無料化も順調に進んでおりまして、両県のスポンサーもそれぞれ順調に見つかっていると思っておりますけれども、今後はさらに個人、サイクリスト個人の方々も本当にそういった整備というか環境改善に、無料化も含めて、貢献したいという思いの方はたくさんいらっしゃると思うので、ぜひそちらも含めて個人の方も参画できるように仕組みを検討していきたいと思っております。

サイクリング用のサイクルストップとか、あるいは、ブルーラインの維持もしていかななくてはけませんし、まだまだいろんな整備があると思っております。ぜひ、そういう意味で、国、県、市町、企業、そして、サイクリストの皆さん、これが一体となってこの地域を盛り上げるようにいろいろ進めていけたらなと考えています。

【中村知事】

ありがとうございます。

ただ今、2つのご提案がありました。一つは個人の寄付について、サイクリングの整備のためであれば何か気持ちを表したいという方への対応を提言いただきました。

これについては、どういう形でやるかは今ご提言あったばかりですから別として、ぜひそういった方向で本県でも検討をして、両県共通の制度みたいなものができればよいと思います。

それからもう一つは、国に対する働き掛けです。これは湯崎知事のご提案により2人で国交大臣のところに行きましたけれども、国も地方創生というのであれば、やはり地域のこういった自発的な独創的な取組みにこそ、口を出さずに金を出すというぐらゐの姿勢を取ってもらうのが一番大事なポイントだと思います。特にこのナショナルサイクリングロードは、名乗れる所というのは限られていると思います。まさに世界の7大サイクリングコースに選ばれて、ヨーロッパの雑誌でも4大サイクリングコースに選ばれたという「しまなみ海道」ですから、そういったところを国も参画して重点的に整備するためにも、ナショナルサイクリングロードという制度が創設され、国がバックアップ体制をとるのであれば、加速度的に色んな取組みが進められると思いますので、共同して働き掛けていきたいと思っています。

では、このあたりの意見をお聞きいただいた上で、深山会頭、いかがでしょうか。

【深山会頭】

今日、森田会頭、中村知事の話聞きまして、やはり主体的にわれわれも企業に呼び掛けをして参加者、協賛者を募っていくという、湯崎知事も「やってくれやってくれ」というのではなくて、「君たちで考えてやったらどうか」という思いがあると思いますので、そういった努力をしていきたい。そういうことによって、今日お聞きしましたような健康管理・疾病予防につながっていくんだという下にちょっと呼び掛けを行っていきたくて思っています。

それから、いろんなイベントが考えられると思うんですが、例えば初心者あるいは子ども向けのサイクリング教室の開催でありますとか、同様にサイクリングロードを持っている他の地域との交流イベント等も積極的にやっていけばよいのではかと思っています。

【中村知事】

ありがとうございます。

本当に地道な取組みになると思うんですが、どうしてもロードバイクやクロスバイク使ったサイクリングというのは、日本ではまだまだ特殊な人がするものではないかというようなイメージ持たれている方がまだ多いと思うんですが、海外に行くと全然そんなことはないので、やはり敷居を下げるためにも非常によい取組みではないかと思っています。

では、森田会頭、いかがでしょう。

【森田会頭】

中村知事が、サイクリングパラダイス「愛媛マルゴト自転車道」ということで、「健康」、「生きがい」、「友情」という3つのキーワードを掲げて努力されていますが、愛媛県の立場で言えば、しまなみ海道があるんですから、愛媛県が世界一になれるのもう自転車ではないかと。自転車にそういう可能性を感じます。他に造船とかいろいろ

ろありますが世界一というのはなかなか難しい状況です。

また、交流人口の拡大、観光振興に非常によいという発想もちろんあるんですが、それに加えて「健康」、「生きがい」、「友情」という言葉に私も賛同しまして、これは強制ではなくて、民間でも、私ども会議所から、経済4団体、農業団体の5団体で、企業に呼び掛けました。企業にとっては従業員の健康は重大な財産で、生きがいを持って働いてもらうことが一番の大事なことなので、自転車は健康に一番よいわけですから、会社で自転車クラブを作るとか、自動車をやめて自転車通勤にするということを進めています。最近、従業員の健康推進や病気予防はコストではなく投資だとする「健康経営」が企業力になるという考えが最近はやっていますが、そういう大意があります。自転車のパラダイスにして世界から来ていただくというんだったら、県民一人当たりの自転車の数が非常に多いとか、サイクリストが一番多いとか、そういう県でないといけないという思いもありまして、そういうことを「自転車新文化」につなげれば、それはもう一石三鳥になるということで、企業の皆さんに呼び掛けたら賛同していただきまして、今、400社以上会員に入ってもらいました。そのうち50社ぐらいに自転車部、自転車クラブができたか、できる予定です。企業経営の原点であるということと、やはり皆さんに来ていただくのであれば、地元のみなが自転車に乗って、知事に「これが足りないですよ。」とか言えないと駄目なので、取組みを始めています。

観光面では、広島は、欧米人がたくさん来られて、外国人が行くスポットの人気ランキングでは平和祈念館が1番ですね。それから、宮島が3番。ベスト5に2つ入っているんですね。もう一つ、観光庁の調査で、次に来たときに何をしたいと聞くと「温泉に入りたい。」というのが1番なんですね。ということは、広島に来て、サイクリングは外国人が非常に好きなので、世界のサイクリストに、このしまなみ海道があるので、広島から「とびしま」を通ってもいいし、「しまなみ」のどっちか通って、そして、広島で1泊して、「しまなみ」辺りでまた1泊して、そして、道後温泉に行つて1泊いうコースが「瀬戸内ゴールデンルート」というそんな商品も、今、実際そう回っている人、結構おられるので、そういう観光振興の商品化と、地道に地元がやっぱりサイクリングを盛り上げていこうという活動が必要かなと思っています。

【中村知事】

今の点で感じたことがあるんですね。旅行業界では、例えば四国でも協会がありますが、今までは、広域の観光商品をつくるときに、どちらかというと四国の中でという発想から脱出できなかった。中国地方の方に聞いたら、実はそちらも同じで、中国地方で作るのもう手一杯と。でも、今回、扉がこじ開けられたと思うので、色々な意見があるかもしれませんが、中四国で連携した文化商品開発というのを一層進めていくべきときが来たと感じているので、旅行業界にそんな働き掛けを少ししてみたいと思います。いかがでしょうか。

【湯崎知事】

そうですね。実は、また「海の道」の関連になりますけれども、今般、某大手旅行会社さんが瀬戸内の旅行サイトをつくっていただいて、瀬戸内地区を切り口にいろん

な観光メニューの提供を始めて来ています。そういう意味では、本当にさらにそれを広めていって、従来の旅行パンフレットが中国それから四国、だいたい山陽路・山陰路、それから、四国というふうに2つに分かれています、それを今度は瀬戸内で。「瀬戸内」というパンフレットで名前を売るようにぜひ働き掛けをしたい。

【中村知事】

よろしくをお願いします。

(4) 人口減少・少子化対策について

【中村知事】

それでは、最後の議題になりますが、人口減少と少子化対策についてでございます。これは、地方にとっては非常に切実な問題でもあります。東京一極集中の問題、それから、人口減少に伴うマーケットの縮小、さまざまな社会風土の変化、これは本当に切実な問題であるとともに、それを如実に表すかのように、今年度、佐賀県で開催されました全国知事会議においても、最大のテーマとして、少子高齢化に伴う人口減少問題が取り上げられました。

この点について、まず湯崎知事から少し触れていただきたいと思います。

【湯崎知事】

広島県では、私が就任をしたときから、この人口の減少ということが最も重要な課題に位置付けられていると考え、いろんな対策をしてきたところであります。例えば、人材の集積とか定着ということに関して言えば、「ひろしま発人材集積促進プロジェクト」といった、イノベーションの原動力となるような高度で多様な人材を集積していこうというプロジェクトであるとか、あるいは、「ひろしまブランド推進事業」といって広島ってどんなところというイメージをもっと確立して、大都市圏にはない魅力、それを我々は都市と自然が近いところにあることが一つ鍵かなと思っているですけれども、これを打ち出していって、イメージとして定着させていこうとか、それを使いながら、東京で定住サポートのコンシェルジュを置くということも進めてきているところではあります。

ただ、こういう地域の魅力を磨いて、またそれを発信して、人が集まる政策をいろいろやっても、東京の一極集中というこの巨大なこの磁石のようなブラックホールのようなものがあり、そのままどこかで一定の限界があると思っています。これはやはり国家としての構造的な問題であるということで、東京一極集中の体制の見直しというものに取り組んでいかなければいけないのではないかなと思っています。

そのためには、この集中に歯止めをかけるというだけではなくて、むしろ分散をするという、歯車を逆回転させるという積極的な動き、企業であるとか、あるいは、人も分散させていくという動きまで踏み込んでいかなければいけない。そのためには、国として、一つはやはり分権型国家、これを目指していかなければいけないですし、特に首都圏に集中している企業であるとか、あるいは、企業のR&D機能というところ

ろを地方に分散をしていく必要がある。Fortune500 のほとんどが東京入りしているんですね。これは世界を見ても、こんな国はないんですよ。もうアメリカでもヨーロッパでも、いろんなところに分散しているというのが通常の姿で、日本というのは異常なんですけれども、それはやはり変えていく。あるいは、経済環境において、企業を支えるようないろんな専門性を持ったような人材、これを地域に向ける、あるいは、大学、大学がもう東京に集中しているので、我々もみんな大学は東京に行っていたのであれですけど、やっぱりそこに集中してきているということも課題である。こういうところでやっぱり分散していくということを国もしっかりと、国ができることとして取り組んでもらうという必要があると思います。そういう意味で、「まち・ひと・しごと創生本部」もできましたけれども、今度そこでつくる総合戦略、2020 年までの総合戦略にも書いていますけれども、ここの中でぜひ今のような取り組みがしっかりと位置付けられるように我々は意見していかなければいけないのではないかと感じています。

また、今、少子化についても、やはり地域によってさまざまな課題があると思うんですが、愛媛県と広島県の課題というのはまた違うと思うし、これも今の考えでいけば、「国がまた全部決めてそれに合ったものに配付しますよ。」ではなくて、やはり地域それぞれが考えたことが自由にできるような交付金とか、そういったことを進めてほしいと思います。去年も「地域少子化対策強化交付金」というのを国のほうでつくられましたけれども、いろんな制約があって、特に市町の事業の採択率というのがすごく低かったんですね。やっぱりそういうことではなくて、柔軟な、やはり地域が自分たちで考えてできるような少子化対策を地域の中で根付いて進めていってもらえたらなと思います。

【中村知事】

ありがとうございます。

まず、最初に言われた地方分権ですけど、これもう本当にその必要性というのはみんなが理解し始めているにもかかわらず、最近、逆の方向がまた色濃くなってきて、中央集権のほうにまた振り子のように戻ってきているような感じがしてならないんですね。でも、こんなことをやっていたら財政がもつはずもないですし、やはり国と地方が役割分担をして、それに見合った権限、財源を地方へ移譲するというのが大前提だと思うんですが、実は、衝撃的な数字がありまして、知事会から分権の課題について提案募集をすべきだという提言を国が受けて、今回実施したんですよ。地方から 900 ぐらいですかね、提言が出されましたが、ほとんどバツです。900 のうち、国が検討するという事で残ったのは 100 ぐらいですかね。

【湯崎知事】

対応不可というのが約 8 割。

【中村知事】

要はやる気はないと。しかも、この提案というのは現場から絞り上げた提案ですから、こちらとしたら、できるものばかりなんですよ。ただ、中央の役所は権限、財源

を手放さないというので、900の提案を全都道府県から出したにもかかわらず、8割が対応不可、残りも「検討する」だけなんです。愛媛県は18出しましたが、全部不可です。これが実態なんです。ですから、これは経済界も含めて、「やはり分権を進めないとこの国の未来はないよ。」ともう一度声を上げるときが来ているということを提言したいと思います。

もう一つは、今、バブルの崩壊以降、人々の価値観が変わってきて、幸せの尺度ってなんだろうというところに皆さんの思いが広がり始めていると思います。東京で暮らす方が、恵まれているし、人も集中しているし、色んな機能があるかもしれないけれど、果たしてそれが幸せなのかというのは別問題であって、やっぱり、地方の自然、コミュニティ、歴史・文化、あるいは食、そういったところに関心が必ず向けられてくると思いますので、地方の魅力とは何かというところをどんどんみんながアピールすることによって、今考え始められている幸せの尺度に大きな影響を与えていく感じがしますので、自信を持っていきたいと思います。

そのためにも、東京に集中しているところを浮き彫りにして、例えば、東京オリンピックが全国的に注目を集めている大きなイベントですが、全国知事会議において、それぞれの県から「オリンピックといっても、東京近辺が潤うだけで終わりですよ。世界の人々が集まるのを機会に、ぜひ人々を地方に流していく道筋を作るべきだ。」という声が上がったんです。

そこで、私から、具体的に何をすればいいかというのは単純なことで、要は移動に伴うコストの問題なんだと。オリンピックは1か月か2か月の期間ですから、この期間は外国人に対して、3日間有効な移動クーポン券を配布することにする。このクーポン券さえあれば、飛行機でも、電車でもどこへでも移動できる、その期間限定でそのぐらいの予算を国がかけて、ローカルに人を動かすことをバックアップする事業をしてはどうかという提言をさせてもらいました。届くかどうかわかりませんが、言い続けていきたいと思っています。それくらい思い切ったことをやらないと、東京一極集中というのはオリンピックのときでもそれで終わってしまうと思っています。

それから、ローカルの対応としては、やはりこれは経済界にもお願いしたいところですが、広島でも愛媛でも、中小企業で世界と戦っている、また、戦える素晴らしい技術を持った企業がたくさんあります。でも、中小企業であるが故に、その存在を地元で住む人ですら知らないことがあります。知らないから、子どもたちが社会に出て行くときも、就職の選択肢に上ってこない。だから、できるだけ早い時期、中学生ぐらいの多感な時期に、こうした素晴らしい中小企業について、インターンや夏休みを利用した企業体験であるとかに力を入れて、早めにその存在を知ってもらうようなきっかけを作れば、卒業した後に地元で就職しようという選択肢が広がると信じています。

それから、もう一つ、広島の方は積極的なかもしれませんが、愛媛県の場合は男性の積極性がこと恋愛に関しては弱いところで、出会いの場を作ってあげないとなかなかきっかけが持てないとのことで、婚活事業に力を入れています。これも行政だけでやるとあまり知恵が出てこないなので、経済団体の愛媛県法人会連合会とのタイアップで大々的な婚活事業を展開していきまして、これまでの約6年間で7,000組のカップルが誕生しています。出会いの場を創設し、早めに結婚する。強制はできませんけれ

ども、そういう機会も提供してあげるのも大事なことだと思っています。

以上、雑駁な話ではありますが、思いつくままに述べさせていただきました。

この点に関して、深山会頭、よろしくお願いします。

【深山会頭】

まず、地方分権についてですが、私ども広島商工会議所では、「地域連携委員会」という委員会をつくっております、やはり日本が生き残るためには、道州制は避けては通れないということで、今、新たに研究というか研究の深化を開始したところがあります。今年の秋も、今までは入れてなかったんですが、地元選出の国会議員の先生方に対して、地方分権型の道州制の導入推進という1項目を新たに入れて、経済界も国に対してお願いをしていきたいと思っています。日本商工会議所についても、そういった基本的な方針で、全国514の会議所がありますので、連携して取り組んでいきたいと思っています。

それから、今中村知事がおっしゃいました学生の、優れた中小企業があるというのをもっともっとPRしなきゃいけないということで官民共通の問題意識を持っておりまして、インターンシップの促進を具体的にやっていこうということで市、県、我々商工会議所も進めているところがあります。

それから、婚活は、以前、「ひろコン！」というのをやっておりまして、街コンですね、広島における街コンが、これは3,000人とかなり多くの人間が集まっているので、愛媛、松山でもされているということを知って、じゃあそれ一緒にやったらどうですかという投げ掛けをして3年ぐらい前に1回か2回、高速船の料金割引きもして、実施したことがありますので、それをもっともっと進めていったらどうかなと思っています。

【中村知事】

ありがとうございます。

それでは、森田会頭はいかがでしょう。

【森田会頭】

東京一極集中の問題については、なかなか民間では動かせません。大企業を地方へ持ってくると言っても、大企業は世界で戦いたいので、出るならば世界だという話になります。例えば、企業が地方のどこかへ移転したら、そこが海外に行くのと同じくらい税制優遇してあげるよと、大学もそうですけれども、そういうことをしないと駄目なので、これは行政にお願いしたいと思います。

それと、少子化の問題については、やはり少子化対策と産業振興というのは両輪だと思うんです。雇用の場がないといけないということで、もちろん愛媛県にも中堅、中小でも世界に通用する企業がたくさんあるので、企業自身もPRしないといけませんし、行政とのタイアップも一生懸命色々されているので、学生に早くから地場の有力産業を、愛媛県にも紙とか造船とかいろいろあるわけで、そういうものを早くから知ってもらうような教育をするなどして認知してもらおうと。いずれにしても、この絶対的な人口減少の問題は日本全体の問題なので、この間の全国知事会議でテーマにあ

ったように、何とかして少子化を止めるということを、どこでもしなければいけません。

婚活の問題は、私が会長を兼任している愛媛県法人会連合会で結婚支援センターを運営して、かなりのレベルの、相当な成果を上げています。全国から視察も来るぐらいですけども、約1万人登録してまして、月20回ぐらい、集団から1対1のお見合いまでお世話しています。これは全部、県の委託事業です。婚活、少子化対策と、それから、女性活躍推進というのは表裏一体なので、「婚活大学」という事業も一緒に補助金をもらって実施しています。女性活躍推進の活動もしていかなければならないということで、やはり何ととっても、地方のほうが、働きながら、子育てしながら、親もいて、地方で3世代が生活することがどれだけ幸せかということをよく分かってもらおうと。また、それに見合う税制とかを整えていく必要があると思います。やはり給料が安くても、3世代が近くにいれば、育児も手伝ってもらえる。もっと言えば、子どもが大きくなれば親の介護も一緒にできるということで、公的負担が減るわけですから、そこは自助の努力をしているわけですから、公助を少し優遇してあげて、世帯として税金を安くするとかそういう制度を導入していけば、子どもを産む人も増えていくということで、地方の人口減少率も小さくなります。未婚化それから晩婚化を止めないとどうしようもないんです。

また、私は、労働人口が減ることが最大のリスクだと思っています。中小企業は今でも採用難です。これからもっと減るわけで、中小企業が人材を採れなくなるということ、愛媛県では8割を占める中小企業が地元の経済を支えているわけですから、最大のリスクになります。そこで、どうしても女性の就業を増やすことと将来の労働力である子どもを増やすことに、もう本当に官民一体となって取り組む必要があると思っています。

【中村知事】

ありがとうございました。

それでは、予定の時間ちょっと過ぎましたので、このあたりで意見交換を終了したいと思います。

(5) PR事項

【中村知事】

最後にPRを広島県からよろしく申し上げます。

【湯崎知事】

では、広島県から2点ございます。一点は、このたび、福山市にあります県立歴史博物館の「ふくやま草戸千軒ミュージアム」が25周年を迎えまして、これを記念して11月30日まで名古屋の徳川美術館に協力をいただきまして「尾張徳川家の名宝」展を開催しています。実は、福山藩は徳川の譜代、徳川の系統です。そういうご縁もあるんですけども、国宝の「初音の調度」といって、素晴らしい茶道具、それから、香

道具なども展示されますので、ぜひおいでいただきたい。それから、もう一点は、やはり「しまのわ」、最後の佳境になってまいりましたが、まだまだたくさんイベントありますので、いろんなイベントにぜひご参加をいただきたいと思います。

【中村知事】

ありがとうございました。

愛媛県からは3つだけご紹介させていただきます。一つは、今「しまのわ海賊フェスティバル」というイベントを行っているんですが、愛媛県美術館にて、県内にある色々な収蔵物を一堂に集めて、「村上海賊の世界」を紹介しています。明後日（10月10日）は和田竜さんにも来館いただく予定になっています。また、和田さんは、10月12日にはこちらの村上水軍博物館にも来られると聞いています。美術館での10月19日まで開催している特別企画展「村上海賊の世界—その風土と文化—」をご案内いたしました。

それから、2つ目は予土線です。高知と県境を活用しようということで、先般、四万十川沿いでサイクリングイベントを開催しました。高知県の尾崎知事にもついに一緒に走っていただきました。両県境に予土線が走っているんですが、正直言ってローカル線ですから非常に厳しい状況の中で頑張っています。普段、列車は空いていますので、JRにご協力をいただきまして、サイクルトレインを走らせてもらえないかということで、秋の運行期間（土日祝）は自転車に乗せられるという実証実験に近い形の運行を始めています。それから、伊予鉄道の郊外線、これも土日は空いているときがありますので、実験でよいですからやってみてくださいということで先月から4カ月間、サイクルトレインの実験が始まっています。予土線は、思わぬ人気が出ています。「しまんトロッコ列車」、「0系新幹線」、それから「ホビートレイン」と3兄弟が走ってまして、これが珍しいというのでかなりの乗客が来られるようになっていきますので、ご案内いたします。

最後に、11月22、23日の2日間開催する「えひめ・まつやま産業まつり」です。愛媛県松山市の堀之内公園で行います、今までは県、松山市が独自で小さい規模で行っていた「産業まつり」を県、市連携で合同させ、これが非常に集客効果を発揮して、去年は2日間で12万人ぐらいの方が来てくれました。また、今年も開催しますので、お時間ありましたらお越しいただきたいと思います。

以上で予定しておりました意見交換会は、全て終了いたしました。

どうもありがとうございました。

【門田部長】

ありがとうございました。

本日は、広島県と愛媛県、それから、経済界も含めて、今後、交流、連携を進めていく上で大変貴重なお話を伺うことができました。今後、対応が必要となる事項につきましては、まずは事務的なところから協議を行い、どんどん進めてまいりたいと考えております。

それでは、閉会に当たりまして、広島県の湯崎知事からごあいさつを頂戴したいと思っております。

4 閉会あいさつ

【湯崎知事】

本日は、中村知事をはじめとして、愛媛県の皆さまにこのような場を設定していただきまして、ご配慮をいただきまして、本当に有意義な検討会になったと思っておりますので御礼を申し上げたいと思います。また、森田会頭と深山会頭には、会議ご参加をいただきまして、貴重なご意見を頂きまして、本当にありがとうございました。

ここ今治市の村上水軍博物館は、本当に時宜を得た施設となっております、ちょうど我々が「しまのわ」をやっている間に和田竜さんの『村上海賊の娘』が本屋大賞を受賞して、そして、200万部を超える大ベストセラーになったということも本当に我々は運があるんだなと感じております。

この村上水軍あるいは村上海賊というのは、因島、来島、そして、能島とまさに広島県と愛媛県の両県にまたがって、そして、そこを拠点として瀬戸内海中で活躍をした水軍であります。そういう意味でも、本当に愛媛県と広島県の連携を象徴するようなものではないかなと思っております。こういった新しい、この注目を浴びる素材といますか、これも活用しながら、今後ますます愛媛県そして広島県が連携を深めていかなければいけないと思います。

この「しまのわ」の成果を今後さらに深めていくと同時に、できれば、やはり瀬戸内中にこれをまた広げていくということによって、2020年、オリンピックに向けて海外から来られるお客さまが東京に来て、ほかにどこに寄るかといったときに、瀬戸内、そして、しまなみに来て、平和公園に行つて道後温泉へというルートが確立されるように頑張つてまいりたいと思いますので、どうぞ今後ともよろしく願いいたします。

5 閉会

【門田部長】

どうもありがとうございました。

以上をもちまして本日の交流会議を終了させていただきます。ご協力を賜りましてありがとうございました。